

令和 2 年度（第 4 3 回）

## 校内放送指導者講座 報告

校内放送指導者講座は全国の高等学校で放送部や放送委員会などの顧問として校内放送の指導を担当している先生方のための研修会です。高等学校における校内放送活動の意義と役割についての理解を深めその指導にかかわる諸問題を究明するとともに、具体的な指導の充実を図ることを目的としています。主催は全国放送教育研究会連盟と NHK です。NHK 杯全国高校放送コンテスト運営委員会・企画総務部が運営を担当しています。毎年 1 2 月に実施されています。今回は令和 2 年 1 2 月 2 7 日（日）、2 8 日（月）の 2 日間にわたって実施されました。

例年は東京都千代田区紀尾井町の千代田放送会館において行われている指導者講座ですが、今年は新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、参加者の参集を回避するために Zoom を活用したリモート形式での実施となりました。講座の開設数も通常の 4 講座からアナウンス・朗読の指導を扱う講座 1 と番組制作指導をテーマにした講座 2 の 2 講座に縮小せざるを得ませんでした。リモートでの実施にもかかわらず、密度の濃い討論が展開されました。

今回の指導者講座のプログラムは以下の通りです。

1 日目（1 2 月 2 7 日）

講座 1 「アナウンス・朗読指導」

講師：NHK 日本語センター 専門委員 飯田 恵一

2 日目（1 2 月 2 8 日）

講座 2 「番組制作指導」

講師：NHK 制作局<第 1 制作ユニット>教育・次世代チーフ・プロデューサー 中野 信子

今回は全国から 4 0 人の参加者を迎えての実施となりました。また、岩手県では講座の内容をリアルタイムで中継し、県内の先生方で共有するという取り組みもなされました。岩手県の先生方、ありがとうございました。

指導者講座では参加者が 4 人から 5 人のグループに分かれてグループ討議などを交えながら研修を進めます。今回は Zoom のブレイクアウトルーム機能を活用してグループ討論を行いました。各グループのファシリテーター役を NHK 杯全国高校放送コンテスト運営委員会・運営部の先生方にお願いしました。ご協力ありがとうございました。

各講座の内容は以下の通りです。

## 講座1 「アナウンス・朗読指導」

講師：NHK 日本語センター 専門委員 飯田 恵一

講座の最初に飯田先生による「アナウンス朗読指導」についての講義を行いました。①話すように読んでいるか②イントネーション③発声、息と響き④意味のまとまり、の4つの柱を中心に講義が進みました。講義の途中には、事前に立候補してくださった3名の受講生の皆さんの読みのご披露もありました。長文のアナウンスが分かり易く進化していく過程や、「細雪」「坊ちゃん」の一節を、構造分析しながら音声表現する過程に、たくさんの学びがありました。飯田先生による双方向のご指導が行われ、オンラインではありますが、画面越しに、3人の先生方の読みが進化していく様子が感動的でした。

飯田先生の講義の内容を踏まえて、アナウンス朗読それぞれ3名の模擬審査を実践しました。各自音声を聴き、点数を入力するというスタイルで模擬審査が行われました。点数の集計中にはグループ討議を行い、審査の振り返りを深めました。飯田先生もオンライン上でグループ討議に加わり、課題を吸い上げていただきました。

集計結果の発表は、あえてミュートを解除し、受講生の皆さんのどよめきも楽しんでいただきました。そのあと、飯田先生に審査のポイントをお話頂きました。原稿と照らし合わせながらの具体的なご指導に、これからの指導や審査にいかせるたくさんのポイントが含まれていました。受講生の皆さんからの質問も大変示唆に富むもので、その質問をきっかけに更に内容が深まりました。飯田先生と、日本中の受講生の皆さんの熱意が画面を越えてぶつかり合う時間となりました。

## 講座2 「番組制作指導」

講師：NHK 制作局<第1制作ユニット>教育・次世代チーフ・プロデューサー 中野 信子

午前中は模擬審査を行いました。審査の結果を実際のコンテスト結果と比べてグループ内で意見交換を行い、その後講師の方によるレクチャーを受けて質疑応答を行いました。模擬審査では第66回NHK杯全国高校放送コンテストの準決勝に進出した作品の中からラジオドキュメントと創作テレビドラマそれぞれ3作品を使わせていただきました。各自で時間内に作品を視聴し、審査点数の送信をしていただく形です。模擬審査の結果は受講者の平均点、コンテストの点数、講師の方の点数もほぼ同じ傾向でした。

午後の講演は、湊かなえさんの「放送コンテストに出てくる作品が中高生の映像作品の中で一番古臭いものになってしまうかも」というショッキングな言葉の紹介から始まりました。コロナ禍で中止になってしまったコンテストの代わりに実施された#放送部チャレンジ!ではコンテストという枠が外れたため、自由な発想の作品が多く応募されました。「放送番組って何?」という疑問が現場でもありますが、下手をすると生徒の自由な発想を縛ってしまうコンテストの形式も審査内容もこれから考えて行かなければならない時ではないかと思うとお話でした。その自由な発想で作られた作品の一部が、翌日と翌々日の「ティーンズラジオ」「ティーンズビデオ」で放送されましたが、その内容の一部の紹介もありました。